

Q



食物アレルギーのある患者さんに漢方薬を処方する場合に、注意をしないといけないことはありますか？

A

漢方薬は数種類の生薬を組み合わせています。生薬は天然の薬物素材であるため、私たちが日常摂取する食品と類似する場合があります、その中には食物アレルギーを起こす可能性があるものがあります。

特定の食品にアレルギー反応を示す方に対して健康危害の発生を防止するため、厚生労働省は「食品衛生法により表示義務あるいは推奨すべきアレルギー物質」27品目を定めています（参考）。それらに該当する、あるいは注意が必要と思われる関連生薬および主な医療用漢方製剤を表1に示しました。しかし、漢方薬に関しては該当する生薬が配合されていても表示の義務はありません。またカキと牡蛎（ボレイ）のように、食用部位と薬用部位（殻）が異なる場合は問題とならないこともあります。実際に漢方薬を服用してアレルギーを起こすことはまれですが、医師や薬剤師は食物アレルギーを持つ患者さんへ漢方薬を提供する際には注意が必要です。

【表1】

食物名	生薬名	主な医療用漢方製剤
小麦	小麦（ショウバク）	甘麦大棗湯
米	膠飴（コウイ）、粉末飴	黄耆建中湯、小建中湯、大建中湯
	粳米（コウベイ）	麦門冬湯、白虎加人参湯
ハトムギ	薏苡仁（ヨクイニン）	桂枝茯苓丸加薏苡仁、麻杏薏甘湯、薏苡仁湯
乳	乳糖（ニュウトウ）	賦形剤として多くの漢方製剤に配合（牛乳から精製されるため、タンパク質が極わずが残存していることがわかっている）
ごま	胡麻（ゴマ）	消風散
もも	桃仁（トウニン）	桂枝茯苓丸、潤腸湯、疎経活血湯、大黄牡丹皮湯、桃核承気湯 他
やまいも	山薬（サンヤク）	八味地黄丸、六味丸、牛車腎気丸、啓脾湯
ゼラチン	阿膠（アキョウ）	温経湯、芍帰膠艾湯、炙甘草湯、猪苓湯、猪苓湯合四物湯
シナモン	桂皮（ケイヒ）	安中散、葛根湯、桂枝湯、小青竜湯、十全大補湯、八味地黄丸 他
カキ	牡蛎（ボレイ）	安中散、柴胡桂枝乾姜湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、桂枝加竜骨牡蛎湯
メントール	薄荷（ハッカ）	加味逍遙散、荊芥連翹湯、清上防風湯、防風通聖散 他
さといも	半夏（ハンゲ）	柴胡桂枝湯、半夏厚朴湯、半夏瀉心湯、六君子湯 他
ヨモギ	艾葉（ガイヨウ）	芍帰膠艾湯

緒方千秋. ファルマシア. 2008, 44(2), p.127. より

参考：食品衛生法施行規則より

表示の義務「特定原材料」7品目：えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生

表示の推奨「特定原材料に準ずるもの」20品目：あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、バナナ、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン

